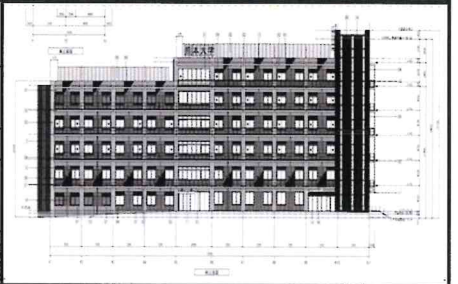


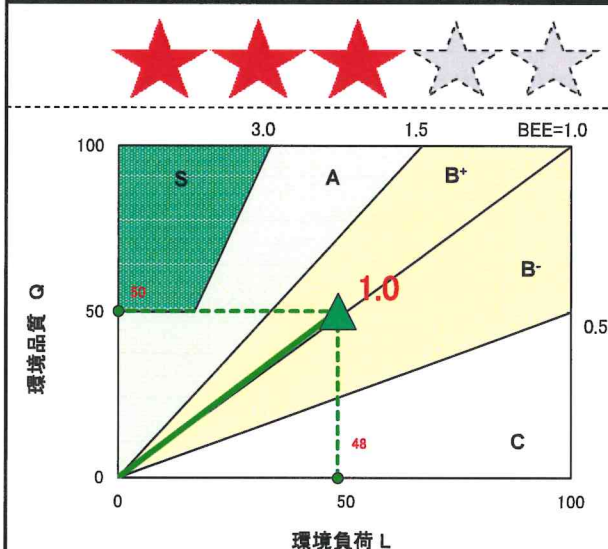
CASBEE[®]熊本《新築》【性能表示】

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	熊本大学(黒髪南)DXイノベーション	階数	地上6階、地下0階	
建設地	熊本県熊本市中央区黒髪2丁目100	構造	RC造	
用途地域等	2用途以上	平均居住人員	1,478 人	
省エネ:地域区分	7地域	年間使用時間	1,920 時間/年	
建物用途	学校,	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工時期	2025年3月 予定	評価の実施日	2023年10月16日	
敷地面積	111,099 m ²	作成者	内村 好美	
建築面積	1,341 m ²	確認日	2023年11月9日	
延床面積	6,783 m ²	確認者	小川 久雄	



2 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



BEE = 1.0

$$\text{BEE (環境効率)} = \frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B ⁺	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B ⁻	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	★★★★★
30%超60%以下	★★★★
60%超80%以下	★★★
80%超100%以下	★★
100%超	★

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)



排出率

86%

3 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価

重点事項総合評価	評価点
	76

評価点

■ 熊本県重点評価基準

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

68.0

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

75.0

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

85.7

【重点事項4】 循環型社会の実現

84.0

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	★★★★★
80点以上100点未満	★★★★
60点以上80点未満	★★★
40点以上60点未満	★★
40点未満	★

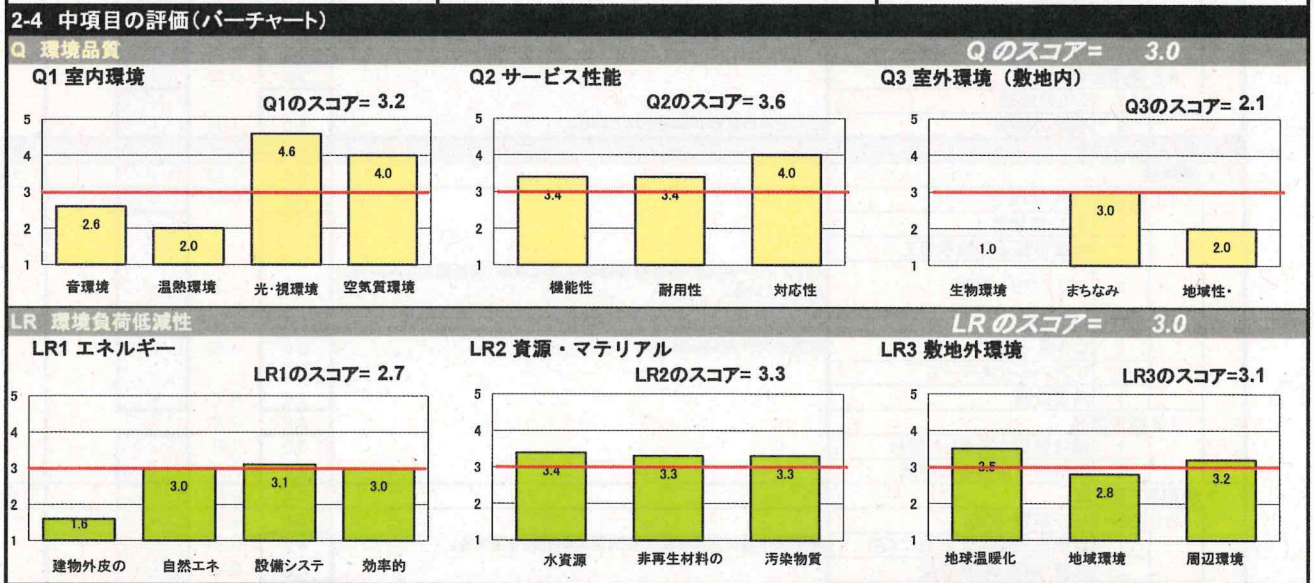
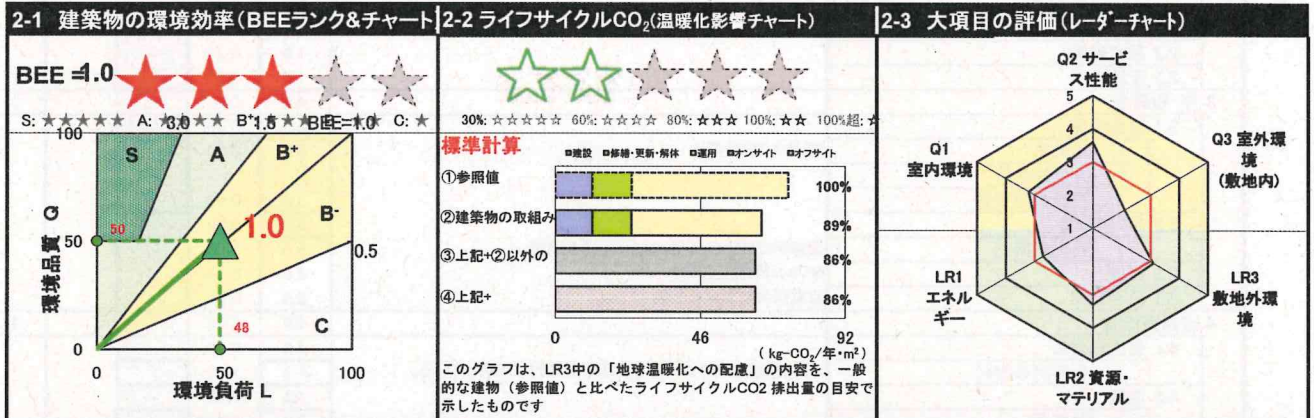
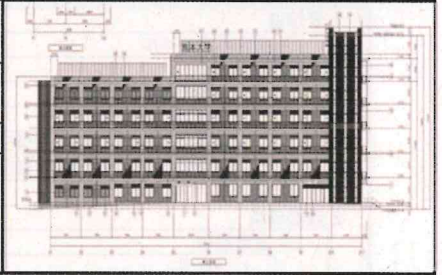
※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE[®]-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	熊本大学(黒髪南)DXイノベーション	階数	地上6階、地下0階	
建設地	熊本県熊本市中央区黒髪2丁目100	構造	RC造	
用途地域等	2用途以上	平均居住人員	1,478 人	
省エネ:地域区分	7地域	年間使用時間	1,920 時間/年(想定値)	
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工時期	2025年3月 予定	評価の実施日	2023年10月16日	
敷地面積	111,099 m ²	作成者	内村 好美	
建築面積	1,341 m ²	確認日	2023年11月9日	
延床面積	6,783 m ²	確認者	小川 久雄	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

スコアシート 実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄				
配慮項目		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						3.0
Q1 室内環境			0.40		-	3.2
1 音環境		2.6	0.15	-	-	2.6
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40	-	-	
1.2 遮音		3.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		3.0	0.30	-	-	
2 界壁遮音性能		3.0	0.30	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	0.20	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	0.20	-	-	
1.3 吸音		1.0	0.20	-	-	
2 温熱環境		2.0	0.35	-	-	2.0
2.1 室温制御		3.0	0.50	-	-	
1 室温		3.0	0.60	-	-	
2 外皮性能		3.0	0.40	-	-	
3 ゾーン別制御性		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式		1.0	0.30	-	-	
3 光・視環境		4.6	0.25	-	-	4.6
3.1 昼光利用		4.2	0.30	-	-	
1 昼光率	2.5% ≤ [昼光率]	5.0	0.60	-	-	
2 方位別開口		-	-	-	-	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	-	-	
3.2 グレア対策		5.0	0.30	-	-	
1 昼光制御	自動制御ブラインド等によりグレアを制御。	5.0	1.00	-	-	
3.3 照度	500lx ≤ [照度] < 750。	4.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御	自動照明制御ができる。	5.0	0.25	-	-	
4 空気質環境		4.0	0.25	-	-	4.0
4.1 発生源対策		4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質	JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。	4.0	1.00	-	-	
4.2 換気		3.3	0.30	-	-	
1 換気量		3.0	0.33	-	-	
2 自然換気性能	自然換気有効開口面積が居室床面積の1/30以上。	4.0	0.33	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33	-	-	
4.3 運用管理		5.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-	
2 喫煙の制御	ビル全体の禁煙が確認されている。	5.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.6
1 機能性		3.4	0.40	-	-	3.4
1.1 機能性・使いやすさ		4.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-	
3 バリアフリー計画	バリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準(最低限のレベル)を満たしている。	4.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30	-	-	
1 広さ感・景観	教室の天井高3.2m以上。	5.0	0.50	-	-	
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	
3 内装計画		1.0	0.50	-	-	
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.4	0.30	-	-	3.4
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.8	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	建築基準法に定められた25%増の耐震性を有する。	4.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.2	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水VLP(B)、給湯CUP(D)、排水VP(B)、Eは不使用。	5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		2.8	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		2.0	0.20	-	-	
3 電気設備		3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			4.0	0.30	-	-	4.0
3.1 空間のゆとり			4.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高3.9m以上	4.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	0.1≦[壁長さ比率]<0.3	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			5.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.4	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	電気配線が配管内とラック上に設置されますので、仕上りを故障させず、更新・メンテナンスができます。	3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	通信配線が配管内とラック上に設置されますので、仕上りを故障させず、更新・メンテナンスができます。	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.0
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	2.7
1 建物外皮の熱負荷抑制			1.6	0.20	-	-	1.6
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			[BEQ][BEIm]= 0.79	3.1	0.50	-	3.1
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.3
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1	節水		4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.3	0.60	-	-	3.3
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.11	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.22	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.22	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		3.0	0.22	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		5.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		4.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5
2 地域環境への配慮			2.8	0.33	-	-	2.8
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		2.2	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

■ 環境関連の配慮事項

熊本大学(黒髪南)DXイノベーションラボラトリー(仮称)他新

印刷:モノクロ
設定済み

・適宜、箇条書き等で記入してください。

・キーボード操作:改行の際は【Alt】キー & 【Enter】キーで次の行に進みます。

計画上の配慮事項		※必ず、何らかのコメントを記入してください。
総合		利用者に配慮し、F☆☆☆☆を使用している。 主要給排水配管は耐用年数が長い材料を使用している。 ライフサイクルCO2排出率の低減に努め、地球環境保護に配慮している。
Q1 室内環境		2.5% ≤ [昼光率]。 自動照明制御ができる。 ビル全体の禁煙が確認されている。
Q2 サービス性能		教室の天井高3.2m以上。 建築基準法に定められた25%増の耐震性を有する。 床荷重:4000N/m²。
Q3 室外環境 (敷地内)		特になし
LR1 エネルギー		BEI=0.79。
LR2 資源・マテリアル		節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。 LGSとOAフロアを使用している。 ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。
LR3 敷地外環境		光害対策ガイドラインと広告物照明の扱いの項目の過半を満たす。
その他		特になし

熊本県重点評価結果 スコアシート ※手動入力は不要		実施設計段階
建物名称	熊本大学(黒髪南)DXイノベーションラボラトリー(仮称)他新営その他工事	

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

熊本県重点評価結果				総合評価点		76
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				68	0.40	27.20
Q1-2.1.2	外皮性能	3.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	5.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	1.6	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	3.1	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	2.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				75	0.20	15.00
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	4.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	4.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				85.7	0.20	17.14
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.29			
LR2-1.1	節水	4.0	0.43			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.29			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	0.0	0.00			
④ 循環型社会の実現				84	0.20	16.80
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.2	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	4.0	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20

※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数